

**ビワ新品種「なつたより」の特性**

「なつたより」は、「茂木」と同程度かやや早く収穫できる中生のビワである。「長崎早生」および「茂木」と比べ大果であり、糖度が高く、食味は良好である。また、着花性も良い。

農業研究センター天草農業研究所 (担当者: 神山光子)

**研究のねらい**

ビワは天草地域の特産果樹のひとつであるが、価格の低迷や寒害による生産不安定等、農家の経営は厳しい状況にある。このため、露地栽培でも比較的収穫時期が早く、高品質で寒害に強い品種の選定を行う。

**研究の成果**

## &lt; 来歴 &gt;

ビワ「なつたより」は、長崎県果樹試験場が 1990 年に、「長崎早生」に「福原早生」を交配し育成した中生の交雑品種であり、ビワ第 3 回系統適応性検定試験の結果を受け、2009 年に「びわ農林 6 号」として登録された。

1. 樹勢は「長崎早生」および「茂木」より強く、樹姿はやや直立、枝の発生密度は密～中、葉はやや大きい (表 1)。
2. 満開期および収穫盛期は「長崎早生」より遅く、「茂木」と同程度かやや早い。果実の大きさは、「長崎早生」および「茂木」より 10g 以上大きい。糖度も両品種より高く、酸含量は同程度である (表 2)。
3. 着花率は「長崎早生」および「茂木」よりやや低いが、着花性は良好で (表 3)、幼果の耐寒性は「長崎早生」よりやや優れ、「茂木」よりやや劣る (表 2)。

**普及上の留意点**

1. 果皮の橙色が「茂木」よりもやや薄いので、収穫適期を逃さないように注意する。
2. 樹勢が強く、幼木期には枝の伸長が旺盛であることに加え、葉が大きいことから、強風や降雪による倒伏や枝裂けが多い。このため、幼木期には支柱による樹体の保持や防風樹などによる防風対策が必要である。
3. 年により樹冠上部や外周部の果実に紫斑症が発生することがあるため、遮光性の高い果実袋を用いるなど対策が必要である。

表1 「なつたより」の樹体特性 (H18~H19)

品種	樹齢	樹姿	樹勢	枝の発生密度	葉の大きさ
なつたより	5, 6	直立	強	密~中	やや大
長崎早生	10, 11	直立	中	密	中
茂木	10, 11	直立	中	密~中	中

注1)「なつたより」は平成13年に高接ぎした。樹齢は高接ぎ後の年数である。

注2)「長崎早生」および「茂木」はいずれも苗木である。

表2 「なつたより」の開花特性および果実品質

品種	年産	樹齢	満開期	収穫盛期	1果重 (g)	糖度 (Brix)	酸含量 (g/100ml)	寒害被害率 (%)
なつたより	H23	10	1/3	6/4	60.7	12.1	0.32	28.1
	H24	11	11/27	6/1	52.9	15.0	0.32	73.3
	平均		12/15	6/2	56.8	13.5	0.32	50.7
長崎早生	H23	6, 15	12/12	6/4	43.9	10.6	0.31	31.3
	H24	7, 16	11/14	5/28	36.6	13.9	0.33	82.1
	平均		11/28	5/31	40.3	12.2	0.32	56.7
茂木	H23	6, 15	1/4	6/5	48.0	10.6	0.30	22.0
	H24	7, 16	11/28	6/1	41.5	12.4	0.33	69.0
	平均		12/16	6/3	44.8	11.5	0.31	45.5

注1)「なつたより」は平成13年に高接ぎした。樹齢は高接ぎ後の年数である。

注2)「長崎早生」および「茂木」はいずれも苗木であり、成木1樹と幼木2樹を調査に用いた。

注3)酸含量は、クエン酸測定値をリンゴ酸に換算した。

注4)寒害被害率: 幼果の枯死数を調査。

表3 「なつたより」の着花率(%)

なつたより		長崎早生		茂木	
中心枝	副梢	中心枝	副梢	中心枝	副梢
78.4	69.0	89.1	74.9	85.7	65.3

注1)H20~24年生の5年間の平均

